


2008年度 環境報告書



(梅田川クリーン作戦参加)

私たちは環境を大切にします

 日本フード 株式会社

<http://www.nipponfood.co.jp/>

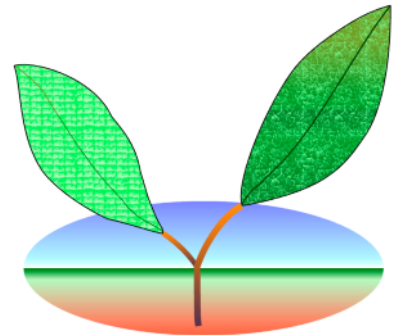
日本フード株式会社は、井村屋製菓グループの一員として、アイスクリーム類・冷凍食品・レトルト食品・清涼飲料水・加工食品の生産を主体とする事業活動を行っています。

「環境への積極的な取り組みこそが、持続的な企業活動の条件」との認識から、2001年より環境保全に取り組んでまいりました。

その一環として環境管理の国際規格であるISO14001(JAB・UKAS)の認証を2002年7月18日に取得いたしました。

これからも全員参加で、環境マネジメントシステム(EMS)の基軸である「継続的改善」を推進してまいります。

そして、ここに2008年度当社の環境活動の概要及びその達成度(パフォーマンス)を環境報告書として取りまとめました。



1. 環境理念

日本フードは、全地球的課題である環境保全を、地球市民であり企業市民である1人として、企業活動の最も重要な社会的責任(CSR)として認識する。そして、我々の生活・産業活動にとって最大のステークホルダーは地球であるとの考えに基づき、“次の世代から預かっている環境を汚すことなく、次の世代に返したい”との希(ねが)いを全ての活動を通じて実現する。

2. 環境方針

日本フードは、冷凍食品、アイスクリーム類、レトルト食品、清涼飲料水、加工食品の生産活動を通じて社会に貢献する。基本方針は、事業の有する環境側面から、目的・目標を明確に定め、これを達成するための活動を継続的、かつ質的な向上を目指して、挑戦することにおく。そして、これらの活動を定期的に見直し、その達成度を確認する。

1) 法律を守る

環境に関連する法律・規制・業界団体・地域等での取決め・ルールを遵守することを内外に誓約する。さらに達成可能な範囲において自主規制値を定め、管理水準の向上を計る。

2) 3R(Reduce(発生抑制・減量化)・Reuse(再利用)・Recycle(再生利用))に取り組む

“3Rへの取組み”を合言葉として省エネルギー・省資源・省廃棄物そして、再生・再使用に全ての部署で日常的に取組み、継続する。又、設備ラインでのデザインでは、エコデザイン(Eco-Design)・ユニバーサルデザイン(Universal-Design)を強く意識し、“人・環境へのやさしさ”をテーマとする。

3) 技術力を高める

冷凍食品/アイスクリーム類/レトルト食品/清涼飲料水/加工食品等の安全で美味しい製品と、そのより良い生産プロセスを追求する。原材料の保全と最適利用、環境負荷を低減する工程の改善など、汚染の予防とともに絶えず技術力の向上に努める。

4) 地域社会との調和を図る

美しく豊かな立地環境の保全と、地域社会との協調を常に念頭において、地域の環境活動に参画する。

5) 環境の大切さを自覚する

従業員のすべてが環境の大切さを自覚し、一市民としても環境保全に取り組む。日本フードは、従業員の環境への意識向上と保全への取組みのための継続的教育訓練、広報活動を支援する。

6) コミュニケーションを大切にする

環境方針および目的・目標を公開する。この目的を達成する過程における開発技術、成果等も必要に応じて公開し、日本フードの環境保全の成果を広く社会共通の財産とする。

これらの活動の成果は小さくても、地球環境の保全に貢献できることを大きな誇りとして、環境保全のための活動を強く推進し、継続的改善を進める。

2008年度社内外の活動

2008年

- 4月環境側面の見直し及び評価、環境関連文書の定期的見直し、環境方針、目的・目標の妥当性、有効性を確認した。
- 6月 ISO(JIS Q)14001:2004 更新審査
9月 「梅田川クリーン作戦」に参加し、清掃活動と、協賛でアイスの配布を実施した。



更新審査

2009年

- 3月 第8回内部環境監査を実施。各職場の運用状況と各管理プログラムの運用状況を確認した。
- 3月7日 工場周辺道路の清掃と防災訓練を90名が参加して実施した。同日全体教育を実施。
- 3月「環境マニュアル」「環境諸規定」についての見直しを検討した。

環境委員会にて、環境方針の見直しと2008年度目的・目標のパフォーマンス確認及び2009年度目的・目標の審議・決定を行った。



梅田川清掃参加

パフォーマンス(達成度)

概要

当社における環境側面調査及び環境影響評価をもとに決定された5の環境目的・目標はそれぞれの管理プログラムとして展開し、実施し、そのパフォーマンスは管理プログラムリーダーにより毎月の環境委員会にて報告審議され、その報告書は食堂に掲示し、社員に状況を伝達しています。また、同様に部門別の活動実施内容についても、環境委員会にて報告審議し、継続的改善を進めています。

2008年度の環境目的・目標5項目のパフォーマンスは次ページ(表-1)の通りです。

環境保全による費用及び効果については次ページ(表-2、表-3)の通りです。

結果として、電気の使用量が4.3%、重油の使用量が6.0%、水の使用量が11.5%(2007年

度値と原単位にて比較)減少し目標を達成できました。生産量がアイス・飲料等全体的に20%増加した為、基本の使用量の割合が低くなり原単位における使用量を減らす事が出来たと思われます。廃棄物は生ゴミ以外の量は生産量に応じて増加しましたが、生ゴミにつきましては不適合製品とミス・ロスの減った事により、原単位当り24%減少し目標を大きく達成する事が出来ました。危険物を適性に管理する為、危険物保有量の把握と在庫の管理・保管場所の施錠のチェックを実施しました。環境美化におきましては、工場建物内外の清掃及び草取り、クリーンデーには周辺道路のゴミ拾いを行い社会貢献に努めました。

環境保全コスト 環境パフォーマンス効果

パフォーマンス(表 - 1)

目的	短期目標 (2009年3月)	2008年度パフォーマンス (達成度)
1. エネルギーの節減	電力と燃料(重油)の使用量を2007年度値に対して、原単位で2%節減する。 地球環境に影響するCO2の削減に努める。	4.3%減(電力) 6.0%減(重油)
2. 水の適性管理	2007年度に対して、原単位で2%節減する。 排水処理の日常管理方法を改善。	11.5%減
3. 廃棄物の適正処理と削減	生ゴミを2007年度値に対して、原単位で2%削減する。	24%減
4. 危険物の適正管理	危険物の適切な管理を行い、安全を確保する。	適切な管理を実施した。保有量の確認を実施した。
5. 工場敷地内外の環境整備	事業所敷地内周辺の環境美化を推進する。 地域の環境活動に参加する。	月一回クリーンデーを実施 全員 5S マラソンを実施

環境保全コスト(表 - 2)

期間:2008年4月1日~2009年3月31日

単位:千円

環境保全コストの分類	主な取り組み内容	費用総額
1. 環境負荷低減に直接要したコスト	・省エネ設備の償却	2,300
2. 環境負荷低減に間接的に要したコスト	・ISO14001更新前審査費用等	1,300
3. 環境整備のために要したコスト	・防音壁の設置 ・井戸の新設等	7,300
合計		10,900

環境パフォーマンス効果(表 - 3)

期間:2008年4月1日~2009年3月31日

単位:千円

目的・目標	内容	金額
1. 電力の節減	使用電力	2,570
2. 重油の節減	重油	5,344
3. ゴミ処理費用	汚泥・埋立ゴミ等	300
合計		8,214



日本フード株式会社

〒441-3106

愛知県豊橋市中原町字地歩24-1

<http://www.nipponfood.co.jp/>

TEL 0532-41-1191 / FAX 0532-41-3860